

6 農業生産の状況

気象概況と作柄

令和5年は融雪が早く、4月以降は、比較的天候に恵まれ、水稻の移植や豆類のは種作業が平年並に終わるなど、春の農作業は順調に進みました。

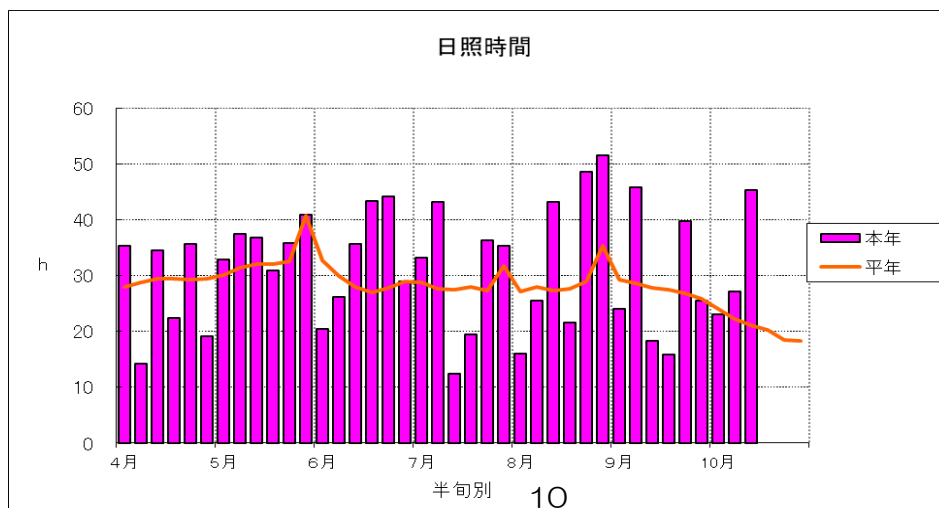
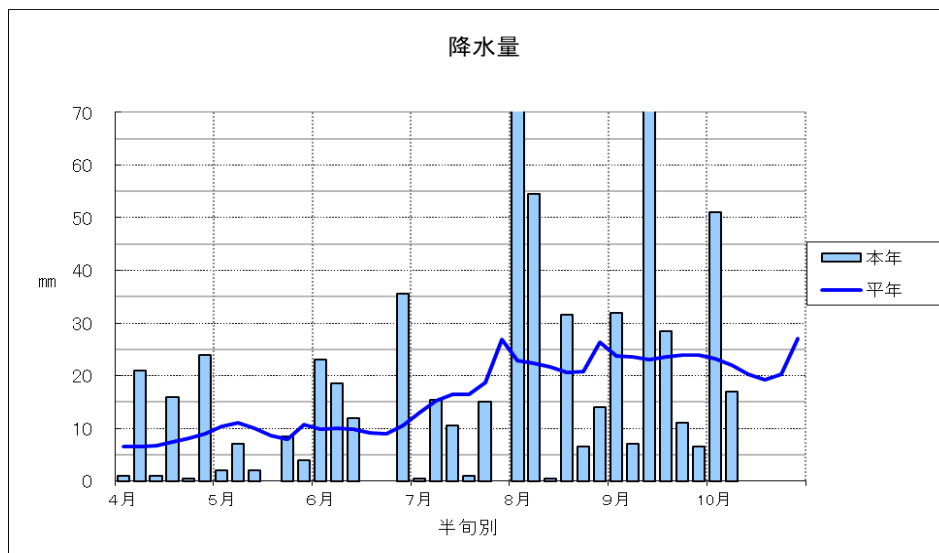
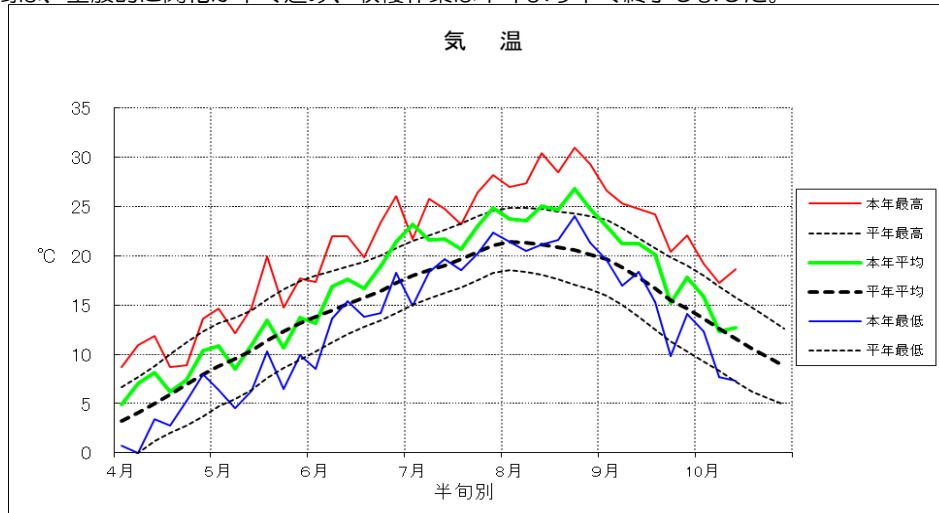
特に6月以降は、気温が高く推移することが多く、概ね天候に恵まれましたが、8月上旬から中旬にかけて大雨による浸水や暴風による畜舎やハウスの一部破損や水稻・飼料用とうもろこしの倒伏被害が一部地域で発生しました。

水稻は、春先の好天に恵まれ、順調に進み、収穫作業も平年より早く終了しましたが、暴風による倒伏や高温の影響を受けて、白未熟粒等が一部で発生し品質の低下が懸念されました。

秋まき小麦は、生育が早く進み、収穫作業も平年より早く終了しました。

豆類は、は種後の気温が高く推移したことから生育は早く進みましたが、高温・多雨による腐敗や大豆は茎水分の高さ、小豆は開花のばらつきによる登熟の不揃いにより農作業がやや遅れました。

果樹は、全般的に開花が早く進み、収穫作業は平年より早く終了しました。



稲 作

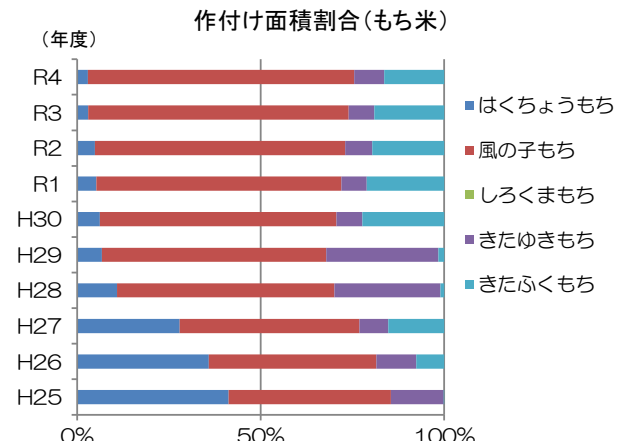
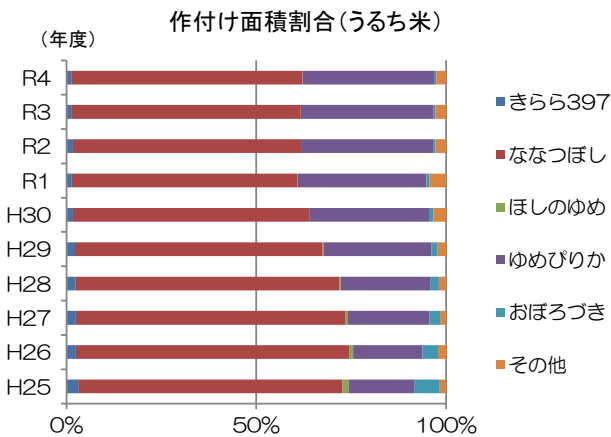
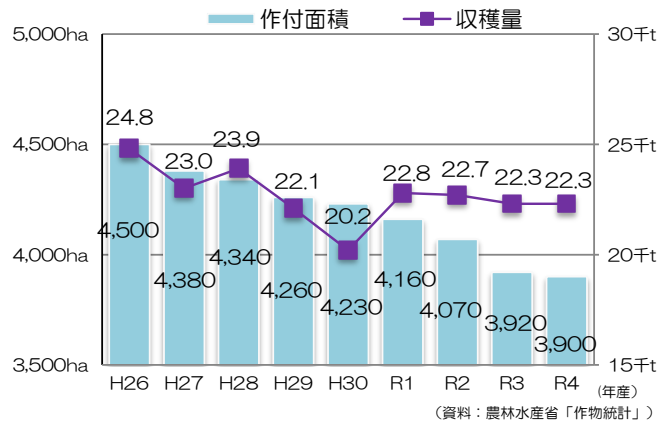
令和4年産の管内水稲作付面積は 3,900ha(うるち米 約3,218ha、もち米 約680ha)で収穫量は約22,300t、10a当たりの収穫量(単収)は572kgとなり、単収では前年産(558kg)を上回りました。

2023年は、特に6月以降に気温が高く推移し、おおむね順調に生育が進んだ。8月上旬から中旬にかけて、大雨による倒伏被害が一部地域であったものの、春先の好天に恵まれ順調に生育が進んだことで、作況指数は108と、作柄は良好でした。

品種別の作付割合は、うるち米では「ななつぼし」が59.3%と大部分を占め、次いで「ゆめぴりか」36.0%、「きらら397」1.2%、「おぼろづき」が0.4%となっています。その他の3%には、直播栽培等の省力化栽培に適した「えみまる」0.8%や、増毛町で生産されている酒米「吟風」0.6%などが含まれています。

もち米については、「風の子もち」が73.1%を占め、次いで、硬化性に優れた「きたふくもち」が16%、「はくちょうもち」は年々面積を減らし2.8%まで減少しています。

水稲の生産状況

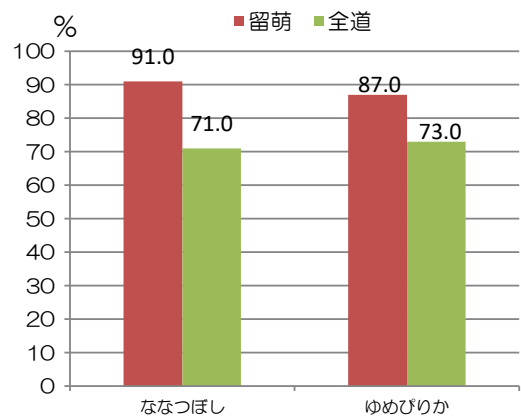


お米の味を決める要素のひとつに「粘り」があり、この粘りを左右する一因として「タンパク質」があげられ、タンパク質が多いと固く粘りの少ないご飯になると言われています。つまり、同じ品種のお米でもタンパク質の少ないお米＝低タンパク米は食味の評価が高くなると言えます。

留萌管内は、低タンパク米が安定的に生産される良食味米産地として、全道でもトップクラスの産地と知られています。

管内で生産される品種は、全道でも主力品種である「ななつぼし」を始め、道産米のトップブランドである「ゆめぴりか」を生産し、品質においても、独自の厳しい品質基準をいち早く設けるなど、安定した良食味米生産にこだわり続け、北海道米のブランド力向上にも貢献しています。

令和4年産 主な品種の低タンパク米生産割合



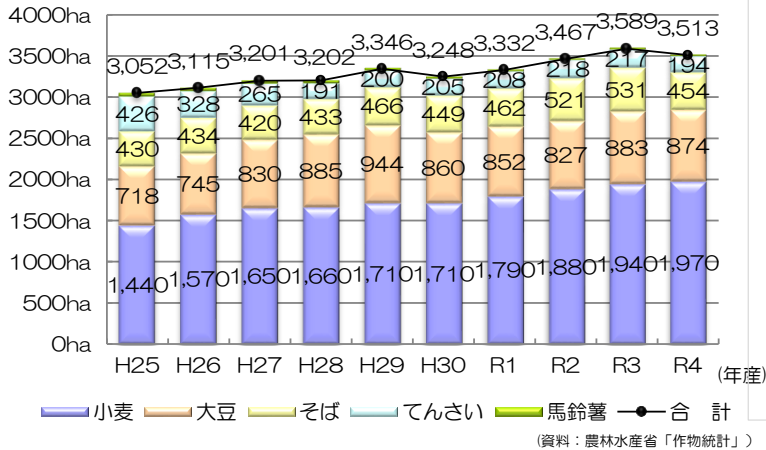
畑作物

畑作物については、畑作経営の比較的多い苫前町や遠別町を中心に作付けされています。

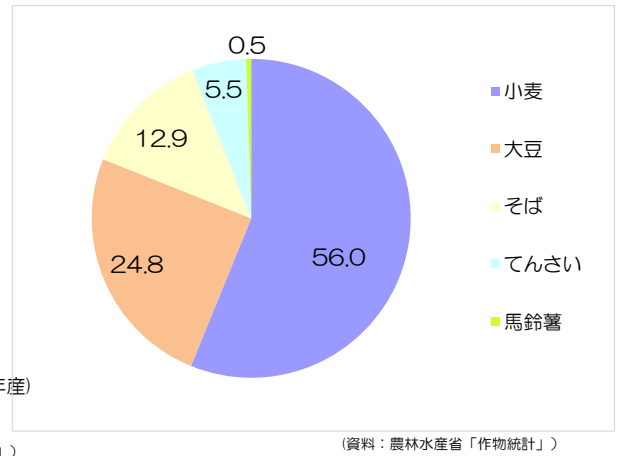
作付面積は近年継続して増加傾向にありましたが、令和4年産の管内全体の作付面積は、前年産より76ha減少し3,513haとなりました。

令和4年産における畑作物作付の内訳は、小麦が最も多く、1,970haと全体の56.0%を占め、次いで大豆が874ha（24.8%）となっています。

主要畑作物作付面積推移



令和4年産主要畑作物作付面積割合(%)

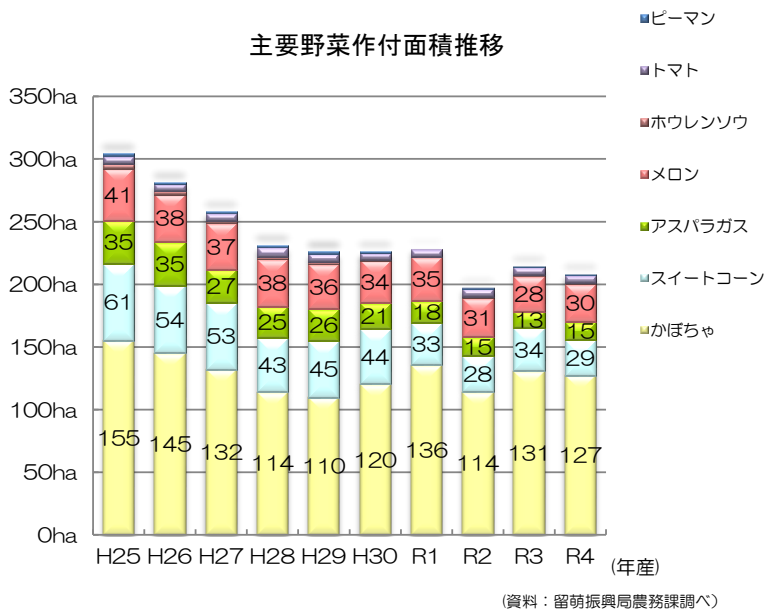


野菜

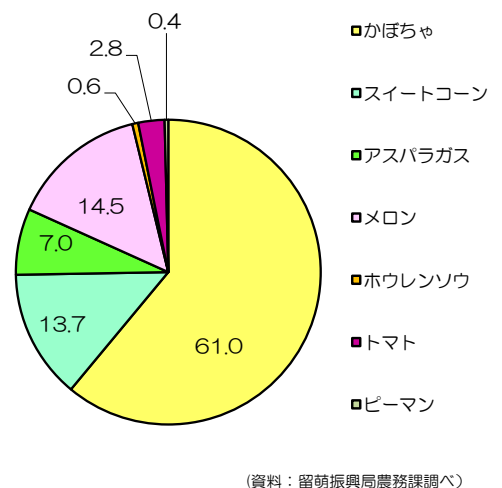
管内で生産される野菜は道外にも多く移出されており、メロンやアスパラガスなどはギフト用としても高く評価されています。また、苫前町のかぼちゃ・スイートコーン・メロンなどの多くの野菜がYes! clean登録されており、安全で良質な農産物生産に取り組んでいます。

しかし、高齢化の進行や担い手不足に伴い、1戸当たりの作付面積は拡大し、労働力不足が年々深刻化しており、管内の野菜作付面積は近年減少傾向にあります。

主要野菜作付面積推移



令和4年産主要野菜作付面積割合(%)



果 樹

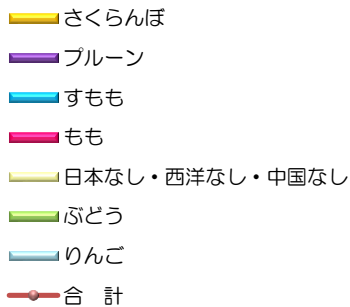
果樹の生産は増毛町で作付され、日本最北の果樹生産地域となっています。

令和3年産作付面積は96haと近年は横ばいとなっています。

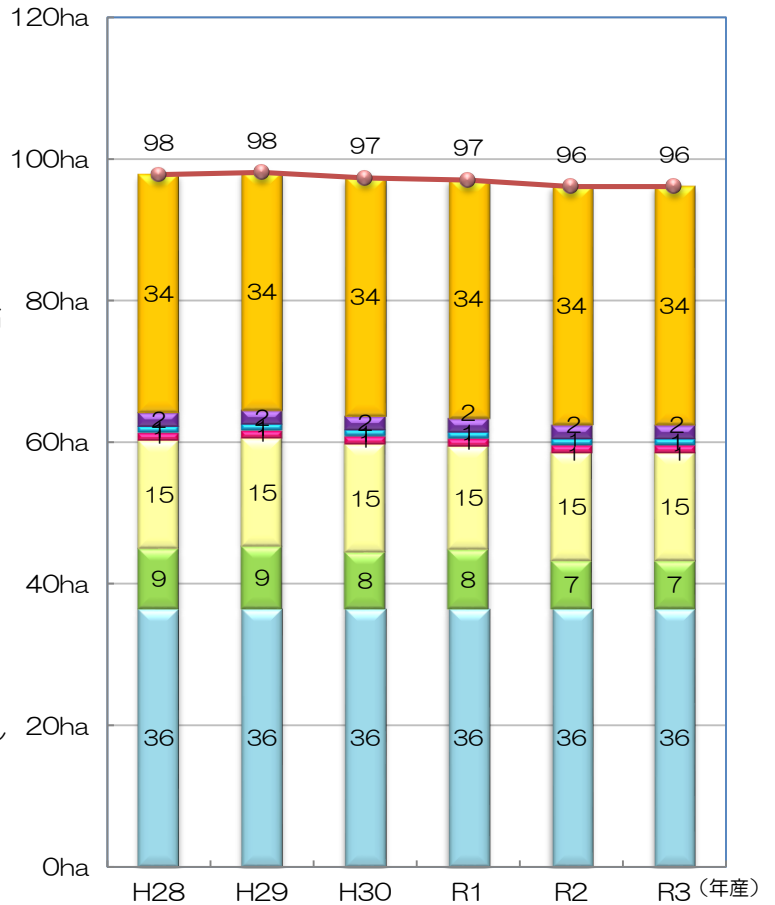
かつての生産主体は、りんごでしたが現在は多角化し、さくらんぼ、なし、ぶどうなど多くの果樹が作付けされています。

令和3年産における作付けの内訳はりんごが最も多く、36haと全体の約38%を占め、次いでさくらんぼが34ha（約35%）となっています。

各作物の多くが、YES! clean登録されており、安全・良質な生産に積極的に取り組んでいます。



主要果樹作付面積推移



(資料：留萌振興局農務課調べ)

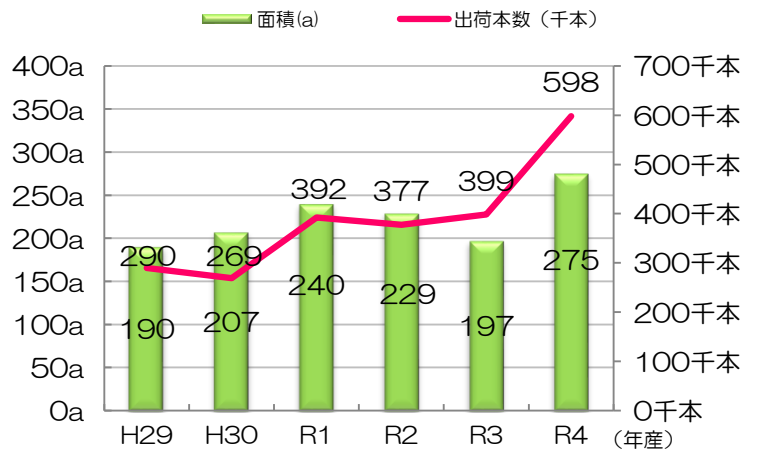
花 き

花きの生産は、留萌市や小平町など留萌管内南部を中心に切花が生産され品種ではトルコギキョウ、スターチス、アスターが多くを占めています。

道内のほかに、夏から秋にかけて関東地方や近畿地方など、道外にも多くが出荷されています。

留萌管内の令和4年産花きの作付面積は275a（前年比140%）、出荷本数598千本（前年比150%）となりました。

花き(切花)作付推移



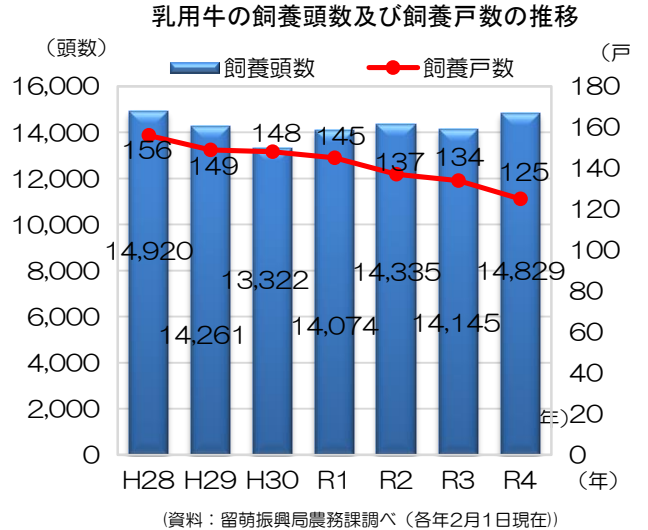
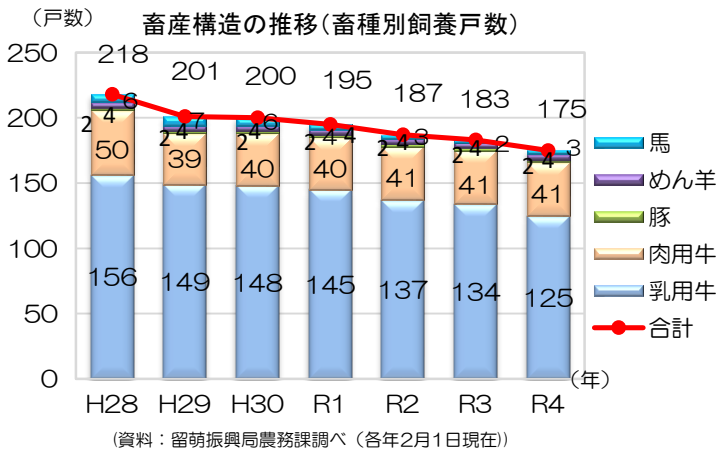
(資料：留萌振興局農務課調べ)

畜産・酪農

管内の酪農・畜産は、北部を中心に広大な牧草地を利用した草地型酪農経営が行われているほか、黒毛和牛やめん羊、豚も飼養されています。

酪農は、北部の天塩町が79戸と管内の酪農家戸数の約6割を占めています。

高齢化等により酪農家戸数は年々減少傾向にあります。畜産クラスター事業等を活用した規模拡大により1戸あたりの飼養頭数が増加しており、令和4年の乳用牛の飼養頭数は14,829頭となりました。

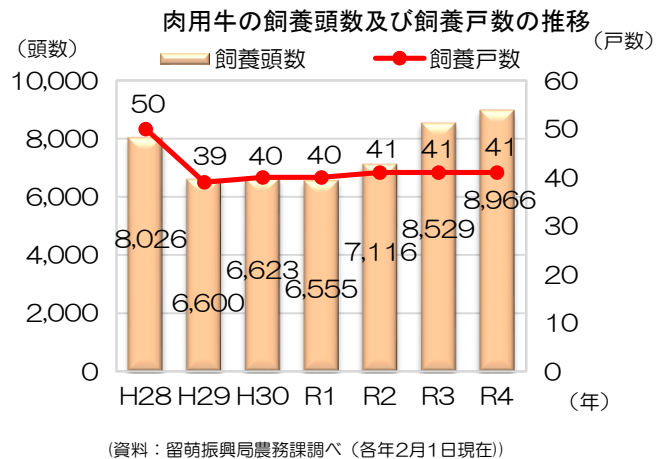


肉用牛

令和4年の肉用牛飼養戸数は、昨年と同じ41戸となりました。飼養頭数は昨年より増加して8,966頭となりました。

天塩町や小平町で生産された黒毛和種の肥育素牛は、本州のブランド牛生産地に出荷されています。

小平町では和牛生産改良組合が古くから組織され、地域全体の飼養管理技術の向上も図っていることから肥育経営における肉質は高く評価されています。

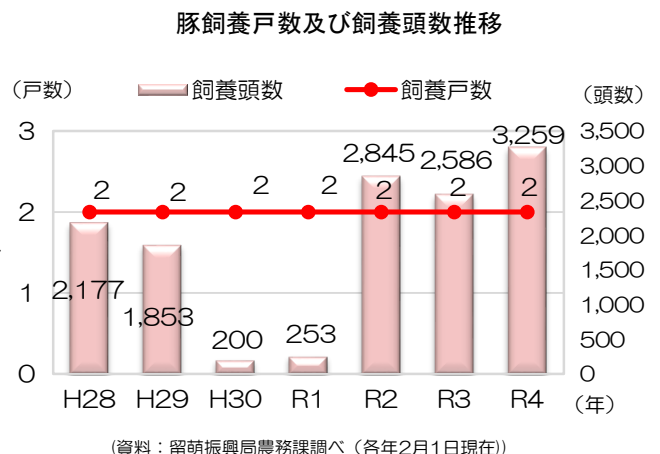


豚

令和4年の豚の飼養戸数は、2戸と平成24年以降、横ばいになっています。

飼養豚頭数は、豚舎の建て替えに伴う飼養豚の一時売却等があったため、平成30年に減少していましたが、令和2年で飼養頭数が戻り、令和4年には3,259頭となりました。

子取用雌豚、種雄豚、肉豚の合計ですが、子取用雌豚がほとんどを占め、小平町及び羽幌町で飼養されています。

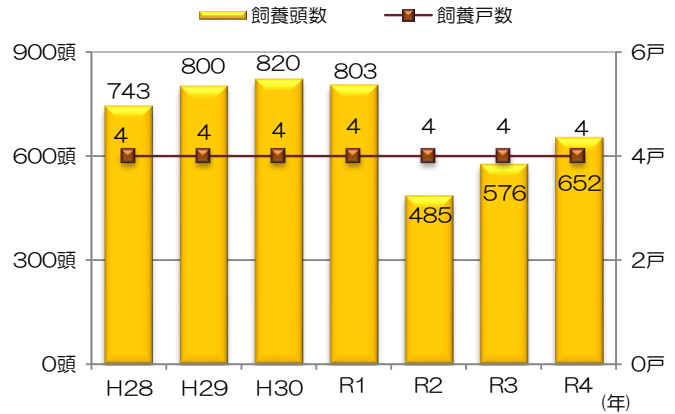


めん羊

管内のめん羊飼養頭数が最も多いのは羽幌町焼尻島にあるめん羊牧場です。焼尻島は、非常に高い評価を受けている羊肉「プレ・サレ」の産地であるフランスブルターニュ地方の自然環境によく似ているため、焼尻産の羊肉も素晴らしい肉質で、非常に高く評価されており、北海道名誉フードアドバイザーでもある食文化論者の小泉武夫氏を「世界一おいしい」と言わしめました。

高級フランス料理店で使用されるなどブランド化が進められており、今後が期待されています。

めん羊飼養戸数及び飼養頭数推移



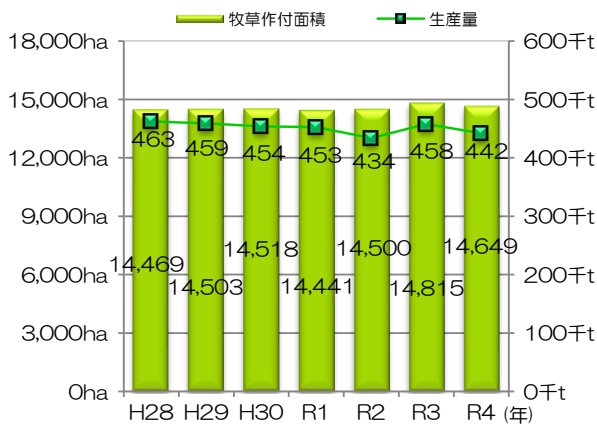
(資料：留萌振興局農務課調べ（各年2月1日現在）)

飼料作物

牧草の令和4年産作付面積は14,649 haと前年産より減少し、酪農専業地帯である天塩町で管内の約62%が作付けされています。令和4年産の1 haあたりの収量は30.2t/haで全道35.2t/haを下回り、生産量は442千tとなりました。

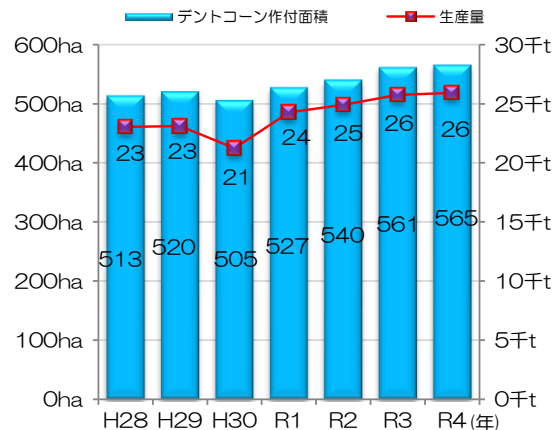
また、デントコーンについては、冷涼な気候である留萌北部での栽培は困難とされていましたが、品種改良等により、北部における作付は年々安定してきており、令和4年は565haとなりました。

牧草作付面積及び収穫量の推移



(資料：留萌振興局農務課調べ)

デントコーン作付面積及び収穫量の推移



(資料：留萌振興局農務課調べ)

公共牧場

管内の公共牧場はかつて12か所ありましたが、施設の休止などにより、一時期は6か所にまで減少しました。しかしながら、令和4年には、おびら和牛繁殖センターが開設され、現在は7か所（令和4年7月1日時点）が稼働しています。

なお、そのうち預託事業を行っているのは、羽幌町の焼尻めん羊牧場及び築別第二牧場を除く5か所となっています。

公共牧場の運営の健全化、また労働力不足解消や農家経営安定化を図るためには、公共牧場の有効活用と飼養管理技術などの向上が欠かせません。

エゾシカ被害

エゾシカは、明治時代初期の大雪と乱獲により一時絶滅寸前にまで激減しましたが、その後、分布域を拡大しながら生息数を増加させ、道東地域を中心としたエゾシカの食性による農林業被害の発生や、交通事故の多発などから、個体数の適正管理が課題となっています。

管内においても自動車での走行距離10kmあたり発見頭数を調査する「ライトセンサス」の数値が、平成20年度に39.0頭/10kmだったものが、令和3年度には59.9頭/10kmまで増加しています。

一方、各地域で鳥獣侵入防護柵の設置や、有害駆除などの対策を積極的に展開したことにより、平成23年度以降は農林業被害額は減少傾向にありましたが、H29年度以降は増加に転じています。

留萌振興局農務課では、管内エゾシカ・ヒグマ対策連絡協議会との連携を図るとともに、市町村段階に設置されている鳥獣被害防止対策協議会への支援を通じて、エゾシカ被害の軽減を図っています。

管内のエゾシカ被害額の推移

(千円)

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
留萌市	2,922	6,039	4,335	10,335	3,051	893	4,967	6,480	2,985	1,675	2,160	5,535	476	3,930
増毛町	3,224	2,740	2,150	2,335	866	550	566	1,540	1,201	1,600	1,794	1,636	2,885	7,736
小平町	2,404	7,828	7,408	6,772	5,990	5,208	5,009	5,647	5,931	4,736	4,789	7,406	6,315	7,243
苫前町	7,725	23,340	20,114	13,281	10,964	8,590	6,322	5,538	5,279	5,024	4,846	4,753	6,007	5,624
羽幌町	9,800	10,300	14,105	9,400	12,150	12,150	4,795	3,547	2,475	11,995	12,853	13,504	12,609	13,292
初山別村	15,700	3,700	4,340	3,889	3,595	2,580	2,580	3,306	3,306	3,266	3,306	3,353	13,600	8,673
遠別町	7,270	9,241	7,496	7,095	5,676	6,390	7,027	7,581	7,581	7,328	7,328	7,073	7,939	7,580
天塩町	1,141	1,583	2,042	1,325	2,060	945	54	214	440	2252	2,090	1,941	847	1,489
留萌管内計	50,186	64,771	61,990	54,432	44,352	37,306	31,320	33,853	29,198	37,876	39,166	45,201	50,678	55,567

(留萌振興局環境生活課調べ)